

自己評価報告書

2022年度

自 2022年4月 1日
至 2023年3月31日

専修学校 厚生労働大臣指定・製菓衛生師養成校
日本菓子専門学校

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	①-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校が目指す将来像を抱けているか	4	③	2	1	2
	評価の根拠					
	有名デパート、エキナカ店舗での製品販売、美術大学との授業コラボ、外部依頼による喫茶でのメニュー考案授業など実施。 業界、地域企業とコミュニケーションをとり、そのニーズに対応できるよう努力しているが学校理念に縛られ、やや時代のニーズにズレがある。					
	課題と今後の改善方法					
	地域、業界での更なる認知を目指す。各職員が社会人として業界の先輩として、自覚を持ち学生指導にあたる。これからの少子化などを踏まえ、学校の規模を検討。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	①-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に十分に周知されているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
欠席の多い学生保護者への連絡、文書発送・保護者が視聴できるよう、実習授業の様子をSNSで配信感染予防対策を学生、保護者に周知し実施した。保護者会への出席率が高く保てている。 学生に対しては例年通り各クラス担任によるHRの実施・学生への学生手帳配布、ガイダンスなど実施、定期的な保護者宛て文書の発送ができています。						
課題と今後の改善方法						
就職、欠席など今後、より保護者との共有に努める。オンラインの保護者会、メール配信などSNSの上手な活用を更に考える。						

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	①-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
製菓衛生師の高取得率の維持及び在学中の合格。年度ごとに各科目の授業内容を見直し、試験直前に集中講座及び練習問題を配布しての講義を実施している。数年、製菓衛生師合格率が約95%で移行している。年々変化する学生に対応した指導を行うため、期ごとに担当者による個人面談を行い、その学生に合った指導方法を考え実行している。学科授業もコロナ禍における衛生思想やHACCPなど、世の中の情勢の変化に合わせ授業を実施している。 専門の技術、知識の修得につとめ、プロとしての自覚と行動力、かつ時代に対応でき実践に役立つ人材の育成を教育方針としてかかげている。						
課題と今後の改善方法						
講師などを含め、業界団体と意見交換して時代に合った育成に努める。業界のニーズが年々多様化しているため、各科の教育目標などを今一度話し合う機会が必要である。ただ、目指す学生像としては本校の教育方針にある「プロとしての自覚と行動力、かつ時代に対応でき実践に役立つ人材」である。						

総合平均値	前回
3.4	3.2

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-1 教育理念に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	3
	評価の根拠					
	教育理念「菓子業界の期待に応える人材づくり」を念頭に置き、基礎技術と知識の習得、衛生思想の徹底と実践に努め、プロとしての自覚と行動力、かつ時代に対応でき実践に役立つ業界人の育成を目指し実行する。挨拶の励行、活力のある学校づくりに努め、安全安心及び食品衛生の徹底を常に考える。 毎年の和洋パンにおける就職率100%の実績がある。外部講師による実習授業の充実を図ることにより、現場の厳しさをよりイメージし、製菓製パンづくりを職業とすることの素晴らしさを感じ理解する。個人面談をすることにより、学生一人一人を理解し、それぞれに合った指導を実施している。					
	課題と今後の改善方法					
	その時代に合った授業内容を考える。和洋パンの100%の就職率を今後も維持できるように努める。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	すべての物資が高騰する中で、節約、材料の見直しをすることにより授業の質を落とさず、事業計画に沿って実施することができた。事務部及び教務部団結のもと、各自の努力により、高校への学校認知度も高まっている。学生募集活動についてもクラウド管理し情報の共有がなされている。					
	課題と今後の改善方法					
	更に物価が上がる中、材料の見直しを行い質を落とさない授業に努める。更なる運営方針の共有と事業計画の明確化を進める。各自の情報システムなどの知識を高める。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化及び有効に機能しているか	4	③	2	1	2
	評価の根拠					
	理事会、幹部会及び各ミーティングは予定通りに適切に機能している。 幹部会は月 1 回で実施・連絡事項はそれぞれの会で共有を行なっている。					
	課題と今後の改善方法					
	教育局と事務局の連携の更なる強化・課題の決定をスピード感をもって進める。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-4 人事、給与に関する規程等は適切に整備されているか	4	3	②	1	2
	評価の根拠					
	給与に関する規程がやや不透明で理解できない部分があるため。					
	課題と今後の改善方法					
	各手当などの充実としっかりとした査定を考える。能力による人事の配置、適正な人事を行いより効率の良い運営を実施する。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-5 教務・財務等の組織整備の意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1	2
	評価の根拠					
	各役職による会議等は機能し、予定通り実施している。					
	意見が出やすいように、役職により分かれて会議を行っている。					
	課題と今後の改善方法					
	会議内容を精査し、無駄を軽減して、効率よい作業性を考えることで業務の効率化を行い、職員の負担減を目指す。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-6 コンプライアンスを守る環境は整備されているか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	特に現在は問題はないが、以後において第3者による対策組織は必要である。					
	課題と今後の改善方法					
	コンプライアンス対策組織の確立、各自の倫理観の更なる理解。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	3
	評価の根拠					
	学校HPにて財務状況、授業内容等の各種学校情報を公開し、毎年更新を行なっている。					
	課題と今後の改善方法					
	引続き学校HP、SNS等で発信に努める。学校PR、入学者数増に向けて、より具体的な方向性の提示をしていく。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	②-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1	2
	評価の根拠					
	募集活動においてはクラウド管理ソフトを活用。学籍管理についてはOA室のパソコンでサーバー管理を行なっているが情報システム化等による業務の効率化を図るよう努力はしているが、予算の関係もあり一部は思うように進んでいない。					
	課題と今後の改善方法					
	紙媒体の削減に努める。成績、出席、就職管理等において、徐々に改善を進める。					

総合平均値	前回
3.0	2.6

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	③-1 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科が編成されているか（業界の役立つ人材輩出のための学科編成は適切か）	④	3	2	1	4
	評価の根拠					
	適切に編成されている。					
	課題と今後の改善方法					
	各科目ごとの内容をより充実させ、入学者の求める学びと業界の求める技術力に corres pond することを目指す。広報活動を通して、各科目の特徴をより周知させて入学増につなげ、業界に多くの人材を輩出できるよう努める。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	③-2 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は適切か	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	製菓技術学科(2年制2545 h)、製パン技術学科(1年制1280 h)、パティシエ技術学科(1年制1262h)、ハイテクニカル学科(1年制800h)となっている。実習だけでなく朝練・夕練という自主練習の時間を設けており、到達レベルのサポートを行なっている。 実習時間については求人企業からも高評価を得ており、実習時間はしっかり確保できている。					
	課題と今後の改善方法					
	時代に合った授業内容の取り入れ。より分かりやすい授業を心掛けることにより、学習進度をあげていく。理解不足の学生に対してのフォロー時間の確保も課題である。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	③-3 学科等のカリキュラムは合理的に編成されているか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	この業種にあった知識を得るための充実したカリキュラム編成になっている。学科テキスト、配布資料などは各年度で新たにまとめたものを使用し、授業内容、時間は前年度を参考にして、規定に沿ってカリキュラム編成している。また、学生に向けた学習環境のアンケートでは「授業内容、カリキュラムが充実している」はあてはまる。ややあてはまるをまとめると91%が充実していると回答している。					
	課題と今後の改善方法					
	学生からの意見として時代にあったお菓子を取り入れてほしい。との意見が多数上がった。時代に合ったカリキュラム編成に課題。常に最新の内容を把握し、授業で反映できるように心がける。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	③-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	年度末に学生に向けて修学アンケートを配布して回答を行なった。「授業の教え方、進め方について満足している」はあてはまる・ややあてはまるを合わせて90%であった。					
	課題と今後の改善方法					
	学生アンケートを集計し、その結果を生かす。講師、卒業生などの意見も取り入れ進めていく。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	③-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	3
	評価の根拠					
	毎年学校関係者評価を行い、本結果を評価していただいている。また、理事会や評議会などでもご意見を頂いている。					
	課題と今後の改善方法					
	今後も業界の動向やニーズに合わせた教育に努める。引続き外部講師、業界関係者よりご意見を頂き改善していく。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	③-9 資格取得等に関する指導体制は十分であるか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	製菓技術学科は在学中での製菓衛生師の合格を目指し、資格取得に必要な授業内容の充実を進めるとともに、試験直前に各科目の集中講座及び練習問題を配布しての講義を実施し、例年94.0%の前後の合格率を誇っています。ハイテクニカル学科は技能検定2級の課題を授業内容として取入れ在学中の合格を目指し、近4年の平均合格率は82.0%であります。製パン技術学科、パティシエ技術学科は食品衛生責任者の講習を全員が受講することにより取得できるよう進めております。					
	課題と今後の改善方法					
	過去の試験データをもとに授業を進め、今後の試験問題の変化に対応するように心がける。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	③-10 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	・ホテルや個人店での菓子製造経験及び製菓衛生師の資格を持っている教師により、現場等で培った技術に基づいて内容も含め授業を行なっている。各科とも多くの専任教師が常に勤務している。					
	課題と今後の改善方法					
	今後さらに若手職員の研修などの勉強の機会を増やす。現場経験者の採用を考える。					

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	③-11 業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどの経営が行われているか	4	3	②	1	3
評価の根拠						
中途採用の人材確保を進めているが出来ておらず、優れた人材を引き付けるための条件不足である。在職年数が短いことも問題である。						
課題と今後の改善方法						
引続き人材確保を進め、同時に人材育成も進める。人材を引き付ける条件の再考。働きやすい環境づくり。						

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	③-12 先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
和菓子職員の振興会、東和会への出席及び作品の出品、洋菓子職員のＪＣＳ、内海杯などコンテスト出品の参加を促し、希望者にはコンテスト参加のためのサポートの実施若手職員の勉強会や講習会等への参加ができるようにしている。希望者による長期休暇時の現場研修の実施などを行なって技術力向上の促進をしている。。						
課題と今後の改善方法						
これからの学生への接し方、コンプライアンスの研修等の導入。和洋パン全職員が各科の専門分野を様々な角度から研究でき、外部へ発信できるような業務体系の構築を進める。引続き若手職員の資質向上の為の取り組みを進める。						

総合平均値	前回
3.1	3.1

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
教務	④-2 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	4
	評価の根拠					
	製菓技術学科の製菓衛生師合格率は2021年度96.0%、2022年度94.0%、近4年の合格率平均は94.5%であります。					
	専門の外部講師により例年授業内容を見直し、常に新しい情報を取入れ授業を開講している。試験直前に配布する練習問題も毎年見直しを図り、最新の問題を取り入れ実施している。					
	ハイテクニカル科の技能検定2級の合格率は2021年度90.0%、2022年度71.4%、近4年の合格率平均は82.0%である。技能検定2級の課題を授業内容に取り入れ直接指導を繰り返し行い在学中の合格を目指す。					
	課題と今後の改善方法					
	今後も試験問題の傾向と対策を考え、合格率の向上を目指す。更なる留学生の合格率向上をはかる。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	④-3 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	2021年退学者2.3%、2022年退学者6.5% 各クラスに担任を配置することにより、学生一人一人に対応できるようにしている。また、面談を定期的に行っており、学生に対して悩みや心配事がないか話す機会を設けている。					
	課題と今後の改善方法					
	本年度は前年より退学者が微増したが、退学者を出さないようにより密な学生へのヒアリングを行っていく。いかなる価値観の学生にも対応できるように考え行動する。それぞれの学生にとって最良の方向を考えるようにする。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	④-5 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
各製菓・製パンの団体で実施しているコンテストなど、卒業生の受賞者を把握、卒業生の新規開店などの情報を収集している。収集した情報は学内でのポスター作成での周知や会報誌、ホームページで紹介を行なっている。						
課題と今後の改善方法						
常にアンテナをはり、情報を集めるよう努める。卒業生とのつながりをより密に行えるようにする。						

総合平均値	前回
3.5	3.5

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑤-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1	4
	評価の根拠					
	高等教育の修学支援制度や貸与の奨学金制度だけでなく、分納制度や学校独自の奨学金などを設けている。現在の学校教育について最低限の制度は導入がされているため入学しやすい形がとれている。					
	課題と今後の改善方法					
	現在行っている制度を永続的に続けられる様努める。奨学金等の周知が保護者まで行き渡っていないため、より制度を知っていただき、入学前、入学後のサポートを強めていく。地方入学者支援制度などを導入し、独自の奨学金制度をより充実できる形を作れるように考えていく。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑤-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からの対策の実施。病気による欠席学生の状況を把握・授業時の病気、けがなどの速やかな対応、災害時における対応について問題なく行うことができている。災害物資の備蓄、災害時備品の備え(止水板、水囊など)も十分である。					
	課題と今後の改善方法					
	授業時の如何なる事故にも対応できるよう、講習受講の実施。(救急の対応など)精神面のケアなども行えるようにカウンセラーの導入など。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑤-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	親睦を深める行事などもカリキュラムに編成しており、授業内での課外活動及び希望する学生による部活動など本年度はコロナ禍のため自粛であったが、支援体制は整っている。部活動希望者には部活動費の補助があり、支援体制は充実している。					
	課題と今後の改善方法					
	コロナ禍後へ向けての課外授業、部活動時の事故対応のマニュアルの再確認。課外活動時の学生の行動が把握できるよう対応する。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑤-6 学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1	3
	評価の根拠					
	全学生を対象にに保険の加入をかけている。学校生活の事故などにおける対応や奨学金支援などを行っている。					
	課題と今後の改善方法					
	補助金制度を活用して、学校備品の更なる購入するなどして学生生活の質を更に向上させる。					

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑤-7 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	3
評価の根拠						
定期的な保護者宛て文書の発送・欠席の多い学生保護者への連絡、文書発送を行なっている。保護者が視聴できるよう、実習授業の様子をSNSで配信及び保護者会及び授業参観を開催し、来校し授業の様子を見学して頂く。						
課題と今後の改善方法						
より学校を知って頂けるよう、年に5～6回様々な資料を同封し、保護者宛に文章を発送することや、メールなど活用して更に今までよりも密に連絡できるように努める。						

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑤-8 卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
同窓会加入の卒業生に年1回、会報誌を発送している。中途求人の斡旋や同窓会、同期会の実施窓口としても活動している。						
課題と今後の改善方法						
卒業生専用のホームページ相談窓口の開設を行い、卒業生とのつながりを強固にする。卒業生の現状把握方法の確立、各期の卒業生住所の整理。						

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑤-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
通信教育課程を設置しており、全日制だけでなく手厚い教育環境が整備できている。和、洋、パンの特別講習会の開講・首都圏講習会の開講を行い、一般の方、主婦、製菓業に従事されている方などに向けても学びを発信している。						
課題と今後の改善方法						
講習会、研修内容のさらなる充実を考える。						

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑤-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1	3
評価の根拠						
高校への市民講師授業2校(各校5～8回)・教師派遣授業私立大学1校(7回)・ものづくりマイスター派遣1校・高校教師派遣授業7校・高校教諭対象の和、洋、パン体験授業2日間など高校のみならず学びの場を提供できている。						
課題と今後の改善方法						
教師派遣授業実施の各高校への周知を行い、より活用していただけるようにする。高校のみならず中学校、小学校への派遣授業の実施拡大を目指す。						

総合平均値	前回
3.4	3.3

⑥教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑥-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	②	1	3
評価の根拠						
法令に基づいた点検を実施している。学生が就職後に困らない、時代に合わせた設備配置や購入は今後も必要である。また、大きく困る部分はないものの老朽化が進んでおり、修繕を行なっているが空調の不具合や壁の剥がれなど快適さや見栄えなどの問題があり今後も目立ってくると予想される。						
課題と今後の改善方法						
同時期に導入した機器・設備が多いため、設備更新の時期が重なっている。計画的な予算配分が必要。補助金等を使用しながら修繕をしていく。						

担当	評価項目	評価				前回値
教務	⑥-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
実習室11室、講義室6室と学校内の教室、設備は広く、充実している。インターンシップ希望者にはその企業と連携して進めており、問題なく整備できている。						
課題と今後の改善方法						
コロナ禍のため海外研修など自粛していたが、今後徐々に体制を整えられるようにする。						

担当	評価項目	評価				前回値
幹部	⑥-3 計画的な避難計画の整備はされているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
避難計画は整備され、職員及び学生に周知できている。防災備品の備蓄確保も問題なくされている。年1回の避難訓練の実施で消防署より高い評価を得ている。						
課題と今後の改善方法						
毎年の避難訓練の実施を続け、学生、職員ともに避難計画を理解できるよう努める。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑥-4 防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
備蓄や避難訓練などの最低限の体制は整備されている。						
課題と今後の改善方法						
災害時の訓練は年1回なので、地域との連携等防災訓練の多様化及び回数を増やせるとよい。防災設備の更新も随時行い、職員ミーティングにて状況把握が必要。また、災害時の人命救助(AEDや心肺蘇生法)なども行えるようにする。						

総合平均値	前回
2.8	3.0

⑦学生の受け入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑦-1 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	3
評価の根拠						
従来のオープンキャンパスや校内説明会、進学相談会、高校訪問に加え、オンラインによる説明会も実施。入学検討者に情報収集の機会を更に増やし、募集活動に努める。その結果、前年度より学生増加に繋がった。 告知等に偽りはなく、過大表現、数値のレビューを行っている。強引な入学への勧誘やしつこいアポ取り等はしていない。						
課題と今後の改善方法						
新入職員に対しても、引き続き意識づけを行い、職員が一丸となって引き続き取り組んでいく。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑦-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
概ね教育成果は伝えられているが、より多くの方々に伝えられる様更なる努力も必要と考える。						
課題と今後の改善方法						
就職状況や外部との取組などの詳細について公表しきれていない箇所がある。HP、SNSの更新といった状況更新をスピード感をもって行う。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑦-3 学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1	4
評価の根拠						
菓子業界が設立した学校の使命として、手頃な金額設定であり、それに見合った教育内容を実践している。						
課題と今後の改善方法						
今後も学納金と教育内容がマッチした教育内容が実施できる様努める。材料費、光熱水費の高騰による固定費の増加に伴う学納金額の再考も今後は必要になってくるが、現在のニーズや入学者の経済状況を鑑みる必要がある。						

総合平均値	前回
3.3	3.3

⑧法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑧-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	4
評価の根拠						
法令に遵守し、適正に運営している。						
課題と今後の改善方法						
引き続き法令に遵守し、運営を続ける。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑧-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	②	1	3
評価の根拠						
概ね対策はとれている。入学者データについてはクラウド保存となっており、在席管理システムはサーバー管理をしている。安全に保たれている。						
課題と今後の改善方法						
人的ミスを起こさない様努める。印刷やUSBでの利用の際は十分に注意する。在籍管理システムに関してはクラウド化し、さらなる漏洩の強化ができるようにする。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑧-3 行政等監督官庁への届け出は適切に行われているか	4	③	2	1	4
評価の根拠						
退職者との引き継ぎがうまくいっておらず、行政庁への申請手続きに支障が起きたため。						
課題と今後の改善方法						
フローチャート等による職員の入れ替わりに対応できる体制の構築。						

総合平均値	前回
3.0	3.7

⑨国際交流

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑨-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1	3
評価の根拠						
受入等は概ね問題なく行っている。						
課題と今後の改善方法						
来校してくれている人に対してのアプローチはできているが、来校促進はあまりできていない。留学生向けのオープンキャンパスなども準備できるように考えていく。日本語学校との連携を強く行えるとよりよい。また就職企業との連携をとり、留学生を受け入れている就職企業数の増加を目指すことも必要。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑨-2 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	4
評価の根拠						
在留管理等は、法令に遵守し適切に行われている。出入国在留管理局からも「適正校」として認定を受けている。						
課題と今後の改善方法						
今後も、法令に遵守し適切に行う。頻繁に変わる制度の情報収集を強化する。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑨-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	4
評価の根拠						
留学生の教育および生活指導の一環として「留学生会」を定期的に行い、把握に努めている。対訳本の配布などで専門用語についてもフォローをしている。						
課題と今後の改善方法						
相談窓口の開設等、何かあればすぐに相談できる体制の構築。						

担当	評価項目	評価				前回値
事務	⑨-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	②	1	3
評価の根拠						
教師派遣により、福島産の桃を使ったデザート講習会など取り組みを行っているが、まだ数が少数。最近取り入れた製菓製パン実習も良い取り組みだが周知不足。卒業して帰国した留学生について追いかけることをしていないため。受け身な状況が多く、国内外での評価される取組はもっと強化できる余地がある。						
課題と今後の改善方法						
講習会などを実施した実績などを公表しきれていない部分がありSNS等で多くの情報を発信し、更なる周知を図る。外国語での情報提供も行なっていく。						

総合平均値	前回
3.3	3.5